

工学院大学建築学部まちづくり学科教授 篠沢委員からのコメント紹介

- **北の丸公園のアイデンティティとは何か等。**
  - ・ 「北の丸公園」らしさ、「北の丸公園」だからこそ、を検討の基本にするという方針に賛成。
  - ・ また、北の丸公園のサクラの今後を考える際、千鳥ヶ淵の「サクラ」に込められた「北の丸公園」としての意味を尊重することが必要。
  
- **「東京都市計画公園第1号中央公園」としての括りをはっきりさせる。**
  - ・ 北の丸公園のみでなく、「北の丸公園－皇居東御苑－皇居外苑＋日比谷公園」を一群として顕在化させていく必要性。
  - ・ 皇居を囲み、東京駅周辺を「後背地」とする東京のセントラルパーク（群）「Tokyo Central Parks」としてブランディングが可能（比較的容易）ではないか。
  - ・ 同時に、「東京都市計画公園第1号中央公園」各地区の特徴、個性化も際立たせていく必要。
  
- **日本武道館という「異質性」、科学技術館という「誘導」。**
  - ・ 北の丸公園については、おおまかなゾーニングは不可欠ではあるものの、その可変性に特徴があるのではないか。
  - ・ 晴れ（ハレ）と曇（ケ）の変化が大きいことが北の丸公園の特徴。なかでも武道館は少し「異質性」をもって公園に位置しているが、日本武道館の存在が、晴れ（ハレ）の場として大きな要因になっているのではないか。日本武道館の現在の利用者は、夕方のコンサートに訪れるだけでなく、午前から「グッズ物販」の列に並んでいる。買い物を終え、開場まで時間的余裕を持つ観客（特に若者）は、午後は「まち」に流れる。そのような観客を北の丸公園にどの程度呼び込むべきかは判断が必要となるかもしれない。
  - ・ 科学技術館は、北の丸公園への「誘導」のきっかけになるのではないか。科学技術館から北の丸公園をどのように考えているのかヒアリングしたい。
  
- **スケール、レイヤを変えつつ見る**
  - ・ 東京都市計画公園第1号中央公園－北の丸地区－日本武道館等のように、見る範囲、スケールを変えながら議論をしていく必要性。

- ・ さらに広く地域に広げるのであれば、「外濠のネットワーク」（千鳥ヶ淵－牛ヶ淵－大手濠等）、江戸城のかつての掘割のネットワークも考慮（導水、流れ、高低差等）。

※参考 法政大学エコ地域デザイン研究所編（2021）外濠－江戸東京の水回廊。鹿島出版会

### ○ 「皇居外苑（皇居前広場）」というテストケース

- ・ 既に東京都市計画公園第1号中央公園の一部である「皇居外苑（皇居前広場）」での試みが進められている。北の丸公園では、それらの検証も含め、試みに対する回答を出す必要があるのではないか。